

# solace

## イベントが可能にするIoT

Solaceは、ハイブリッドやマルチクラウド環境を横断する形で存在するコネクテッド・デバイスやゲートウェイ、そしてアプリケーションを結ぶイベント配信網によって、IoTとITの世界を結びつけます。

### 機能

Solace は接続されているデバイスとアプリケーションとの間でやり取りされるリアルタイムな情報を、極めて高速かつ安全にルーティングします。

- **多様なエンドポイントと環境:** Solace の技術によって、デバイスはLAN、WAN、およびウェブを介してクラウドやデータセンターのアプリケーションと簡単に接続することができます。
- **桁違いの高スループット:** Solace のメッセージ・ルーターは一日当たり何兆件ものメッセージを何百万という接続デバイス間でルーティングする能力があります。
- **包括的なセキュリティ:** Solace のメッセージングでは、セキュアなTCP接続を使用します。すべてのシステムはそれらがデータを送受信する前に認証する必要があり、メッセージは配信中に暗号化することも可能です。



### アドバンテージ

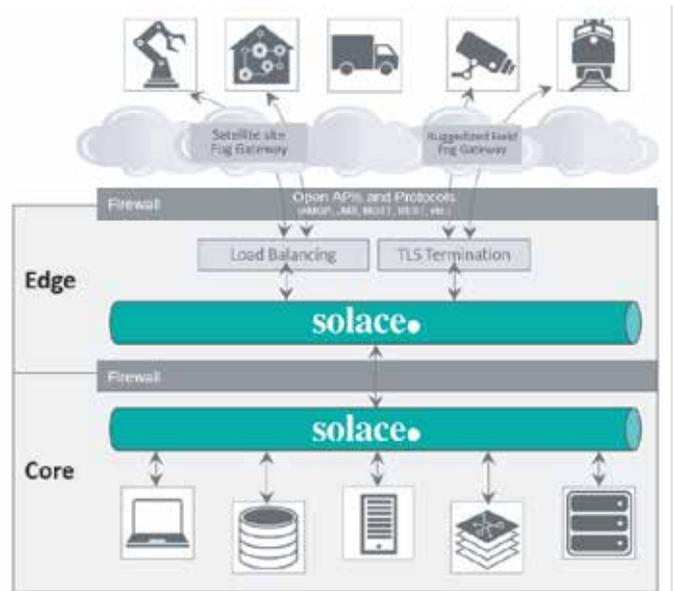
- **パフォーマンス:** Solace は、市場を圧倒する高スループットとネットワーク資源の有効活用により、強力なIoT 基盤を実現します。
- **堅牢性:** Solace の技術は、エネルギー、金融サービス、政府機関、電気通信、交通や運輸など、様々な分野のリーダー企業のデータ配信ニーズを満たすことで、その信頼性を実証してきました。
- **簡索性:** あらゆるデータ連携ニーズを統合型マルチプロトコルプラットフォームで実現することにより、Solaceは様々なIoTイニシアチブのアーキテクチャ、展開、スケーリングをシンプルにしています。

Solaceは、到達性保証型パブリッシュ/サブスクライブ配信機能を提供し、また数百万台におよぶデバイスを収容するキャパシティを持っています。さらに、アプリケーションが必要とする特定の情報だけを送信するインテリジェントなフィルタリング機能や、大量すぎるリアルタイムデータにアプリケーションが追いつけない場合にもその流量を動的に制御することで確実にメッセージを届ける「ショックアブゾーバー（緩衝装置）」としての機能も提供します。

## エンドツーエンドなアーキテクチャー

Solaceは、コネクテッド・デバイスとアプリケーション間でのイベントベースの双方向通信機能を提供します。クラウドやレガシーなデータセンターなどの環境を問わず、オープンAPIやプロトコルによりあらゆるメッセージングパターンに対応できるSolaceは、典型的なIoTアーキテクチャーのコア、エッジ、さらにフォグレイヤなど、あらゆるレイヤーでのデータムーブメントを可能にします。

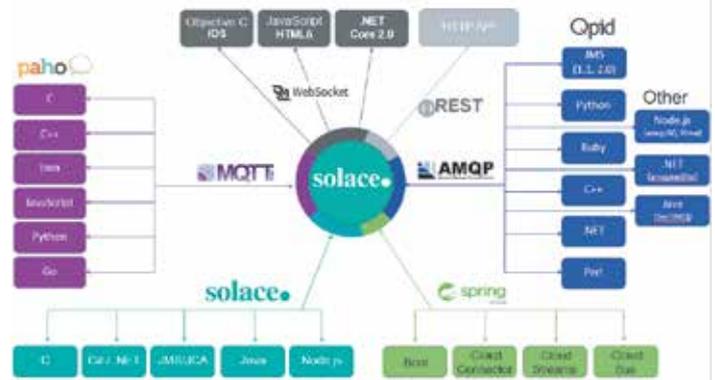
- **デバイス:** IoT における「モノ」には、車両、産業用制御システム、POS システム、リモートセンサー、スマートメーター等々が含まれます。
- **ゲートウェイ:** これらのデバイスは、仲介ゲートウェアを介して頻繁に結合され、情報を直接共有し、クラウドやデータセンターで稼働するアプリケーションに更新情報を送ります。
- **アプリケーション:** IoT システムのビジネス的な価値は、クラウドまたはデータセンターで稼働するアプリケーション群や分析エンジンによってこそ最大限に発揮されます。



## 多様なコミュニケーションモデル

Solace は、多様なプロトコルとそれらが提供する様々なサービスレベルをサポートし、あらゆるIoTデータ配信要件に応えることができます。

- **オープン・プロトコル:** Solace は、MQTT、REST、JMS、WebSocket 等、様々な標準プロトコルをサポートします。
- **Request/Reply:** Solace のメッセージ・ルーターは一日当たり何兆件ものメッセージを何百万という接続デバイス間でルーティングする能力があります。
- **パブリッシュ/サブスクライブ (Pub/Sub):** ワイルドカードなどを含め、高度できめ細かな指定が可能な1対多のパブリッシュ/サブスクライブメッセージングを使って、1つのデバイスに対するアップデートを複数の個別の宛先にルーティングすることができます。
- **Streaming:** Solaceは、ノンパースistent (非永続型) またはパースistent (永続型) の配信機能を使って、センサーの出力やログファイル、さらにその他の更新情報を持続的にストリーム配信することができます。



## シンガポール陸上交通庁

シンガポール交通省の陸上交通庁 (LTA) は、シンガポールにおける交通インフラストラクチャーやシステムの計画、建設、維持を担当する行政機関です。

Solaceのデータムーブメントテクノロジーは、シンガポール陸上交通庁の次世代型電子式道路課金システム (ERP) の中核的なインフラストラクチャーコンポーネントとして採用され、NCSと三菱重工 (Mitsubishi Heavy Industries Engine System Asia [MHIES-A]) とのコンソーシアムによって、システムの構築が進められています。

この次世代ERPシステムでは、すべての自動車はGPS機能が組み込まれたオンボードデバイスを備えることが義務付けられ、位置情報や走行速度などの情報をリアルタイムに送信すると共に、ドライバー向けには渋滞状況や迂回路情報などをリアルタイムに提供します。



Solaceの技術は、オープンなAPIとプロトコルを用いて、クラウド全般にわたって存在するアプリケーション、機器、人々との間で情報をルーティングすることで、オープン・データムーブメントを可能にします。これにより、企業組織はレガシー・アプリケーションを近代化し、アナリティクス、ビッグデータ、クラウド・コンピューティング、IoT戦略を促進することができます。

詳細については<https://solace.com> をご覧ください。